

「全鍍連」 2021年 4月号 理事長のよこがお

群馬県鍍金工業組合 理事長 藤間 一夫（藤間精練(株) 代表取締役社長）

「『染色から鍍金へ』生き残りをかけた転換」



伊藤前理事長が病氣療養中（COVID-19 ではありません）の為、急遽、昨年11月から群馬組合の理事長を務める事になりました藤間一夫と申します。全鍍連では、これまでに情報国際委員会、環境委員会でお世話になっておりますが、引き続き宜しくお願い申し上げます。

理事長就任前後は、緊急対応で準備等により、息をつく暇もないほどでした。ほどなく年末年始を迎え、ようやく落ち着きを取り戻した頃、全鍍連からメールが入り寄稿依頼がありました。まさに寝耳に水で、何をテーマに文章を書くか悩みましたが、「理事長のよこがお」と、ありましたので、会社紹介をさせていただきます。

弊社は明治40年に私の曾祖父が群馬県高崎市内で染色工場として創業しました。昭和初期、繊維製品は主要な輸出品目でしたが、時代の変遷により繊維業界は海外の安価品に押され淘汰されてしまいました。昭和の後半はバブル経済、真只中で、世間は好景気に沸いていました。しかし弊社の受注は落ち込む一方でした。その穴を埋めるべく、先代である父が経営資源をシフトし、平成元年にカチオン電着塗装、その後、無電解ニッケルめっきと歩んでまいりました。

たびたび質問されることですが、取り扱う製品が「繊維から金属へ」大きく変化したけれど、どうして舵をきれたのですか？これについては、社名に名残があります。「精練」とは繊維から不純物を取り除くことです。精練工程は鍍金に似ている部分があり、水、ボイラ、排水等のインフラをそのまま活用できるので、設備投資費用を抑制する事ができたのです。不純物を除去し付加価値を付与する点においては同じです。社名の精練は、間違えられることが多いのですが、精練ではありません。今後も難しい時代が続きそうです。伝統ある社名は残したいと思いますが、企業や製品のライフサイクルが短くなっている今、時代に合った事業展開を考えたいと思っています。

5代目候補の息子が入社し、肩の荷が少し軽く成り掛けていたところに、理事長と言う大役を担う事になりました。社歴は100年以上ありますが、鍍金業界の仲間に入れて頂き、未だ30年余りと歴史も経験も浅い会社です。私自身も今年、還暦を迎える若輩者です。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。結びにコロナ禍が収束し一刻も早い安寧が訪れます様、ご祈念申し上げます。